

一般・一般

平成29年度

平成28年度

また、下水道会計への繰出金は少ない金額ではない。公共施設等総合管理計画を踏まえマネジメントし、下水道の施策を見直さないと、いつか破綻してしまう。

問 小・中学校の校長の方針のもと実施できる

特色ある学校づくり事業の具体的な活動は。

答 各学校から提出された事業計画を基に、伝統や校風、地域の特色を生かした教育活動を展開する。

平成29年度は、地域の方が講師となる昔遊び教室や、野菜作り体験などを考えている。今後1年をかけて事業を精査しながら、教育ビジョンにつなげたい。

意見

公共下水道の認可区域で、今後も公共下水道整備が困難な地域は、合併処理浄化槽の補助対象とすべきではないか。

意見

それぞれの学校の良さを認め合う事業になるよう、教育委員会として方針を示すべきである。町内企業との連携も視野に

入れ、松前町の特徴を出してほしい。

また、長期間継続して実施される事業として、行政及び学校間でしっかり連携できる方法を考えるべきである。

問 不登校児への対応は。

平成29年1月末時点での不登校児の人数は小学生が1名、中学生で23名である。

前年度と比較すると、小学生では変化はないが、中学生は4名

増加している。各家庭の事情を考慮し、学校、福祉課、児童相談所などの関係機関と連携し、対応していく。



北伊予小グラウンドで遊ぶ子ども達

1. 子どもの健全育成のために

問 松前中学校体育館の

照明の交換に要する予算の大半は足場の設置費用のため、LEDに交換すべきではないか。

答 全ての照明をLEDに交換するには、ソケットの交換等も必要になり、全体で一千万円近くかかる。今後はLEDへ交換していく

よう、年次計画を考えた。 **問** ホッケー普及促進事業の取り組みは。

ホッケー普及のため、学校長等に協力の了承を得て、放課後児童クラブや、放課後子ども教室などでホッケーの時間を設けるよう計画している。

また、松前ホッケークラブでは、週3回以上練習日を設けており、2名から3名の県

ホッケー協会会員が指導にあたっている。国体終了後も、継続し指導する。

問 愛顔(えがお)の子育て応援事業とは。

2人目からの子どもに対し、1年間、紙おむつ購入助成を行う。広報やホームページでの周知に加え、母子手帳交付時や子ども医療費申請時にも案内していく。

意見

子育てを応援するためにも、今後、1人目からの助成を検討しては。

